

明石商業高等学校長期構想検討会議 報告書 骨子

グローバルな視点からの改革—新たな市民の育成—
 国の内外を問わず「グローバル」化の進展が言われるなかで、そうであるからこそ逆に「ローカル」の視点への重要性もまたいっそう高まっている。その両方のバランスのとれた「グローバル」な取組こそが、今、教育にも求められている。
 明石市においては、文化・経済・情報とともに「人材」においても、JR神戸線と2号線を東西の横軸に、あるいは南北幹線道路と明石海峡大橋を南北の縦軸に、市域を越えての交流がいっそう進んでいる。
 兵庫県教育委員会においても、とりわけ専門教育において全県学区化を推進し、市立学校においても、市域を越えて人材の育成を求めており、阪神間の市立学校においては既に実業科の全県学区化が推進されている。
 今や、市域を越えて人材育成を図ることが求められている。
 明石商業高等学校においても、その人材育成の視野をグローバル化し、明石市民の子ども達とともに将来の明石市民の育成、あるいは明石での産業従事者の育成を図るべきであろう。



- 1 平成20年度から推薦入試を全県学区で実施する。
 但し、学力検査は従来通り明石学区とする。
 (平成19年6月5日付け中間報告書)
- 2 会計科・スポーツ科を設置する。
 - (1) 会計科 — 商業科の専門性を高め、進学・就職における中核の学科とする。
 - (2) スポーツ科 — 一部活動におけるスポーツに関する分野の特色化を図り、学校生活のいっそうの活性化の核とする。



<p>国・県における高校教育改革の動向 教育改革の推進の中で、高等学校においては、</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 社会の変化や生徒の多様化への対応 ② 学びたいことが学べる学校としての選択肢の多様化 <ul style="list-style-type: none"> ・新しいタイプの学校(単位制、総合学科など) ・複数志願選抜 ・特色選抜 <p>といった点での改革が推進されている。 また、実業高校においては、県立・市立ともに、全県学区での入試制度が求められている。</p>	<p>明石商業高等学校の現状 現在、明石商業高等学校にかかわる内外の現状は、以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 本校の状況 学校生活の基本に、商業教育を中心とした学習活動と、部活動を中心とした課外活動から形成され、一定の成果を収めているが、この二本の柱をいっそう強化し、充実することでさらなる飛躍が期待できる。 ② 明石学区の変革 明石学区においては複数志願制と特色選抜が導入されると共に、総合学科が設置されるなどの特色化が図られている。
---	---

但し、スポーツ科の設置についてはその費用対効果を十分に検討すること。